

### 第四章 防 災

#### 第一節 災 害

##### 一 災害記録

##### (一) 台風・水害

##### 1 過去の台風・水害

一部、記録がなく不明のところがあるが、内海村に被害が生じた台風・水害は次のとおり。

##### ●明治

一四年 台風により柏崎小学校校舎倒壊。

一七年八月二五日 暴風雨により内海浦柏崎の民家十数戸が流出。

##### ●大正

三年九月一四日 台風により金峯神社の大木二四株倒れる。

一五年七月三日 南宇和郡一帯に大雨。柏字タカメギ付近の道路で土砂崩れ。

一五年七月六日 南宇和郡一帯に大雨。柏坂で土砂崩れ発生。

##### ●昭和

二年四月三日 豪雨により柏崎の県道で山崩れ。

三年八月二九日 大暴風雨により村内の県道に陥没崩壊あり。

六年一〇月一三日 大暴風。コーデ塔で大敷網乗組員三名死亡。

八年一〇月二〇日 大暴風雨により被害甚大。御下賜金あり。

一八年七月二二日 大水害。柏川が氾濫、菊川では死者も。

二四年六月二三日 デラ台風。被害記録は残っていないが、高潮

による被害が甚大であったようだ。

二九年八月一八日 台風五号により被害甚大。被害状況は別記。

三六年九月一六日 第二室戸台風接近。魚神山小学校校舎倒壊。

三八年六月二三日 台風三号接近。柏崎で土砂崩れ、二名下敷き

になるも救出。

四七年七月二三日 台風九号接近。翌二四日に国道五六号線柏付

近で土砂崩れ。

##### ●平成

二年八月二三日 台風一四号接近。真珠筏に被害。

五年九月 台風一三号接近。真珠稚母貝、筏に大被害。

九年六月二八日 台風八号接近。柏崎地区などで真珠養殖作業

場、筏に被害。

九年九月一六日 台風一六号接近。柏崎で真珠養殖の筏が破壊

される。

##### 2 台風五号（昭和二九年）の被害状況

昭和二九年八月一八日午後三時半ごろに九州を横断した台風五号は、豊後水道を通過して南宇和郡御荘町付近に再上陸した。九州に上陸寸前の勢力は九四〇ミリバール（当時）、中心付近の最大風速は五〇メートル、半径二五〇キロの暴風域を伴う大きな台風であった。

内海村では、一八日朝から最大風速約二五メートルの東南の暴風が吹き荒れ、午前一〇時の満潮時には昭和二四年のデラ台風以上に高潮の猛威にさらされた。したがって台風が最接近したときよりも、この時間帯

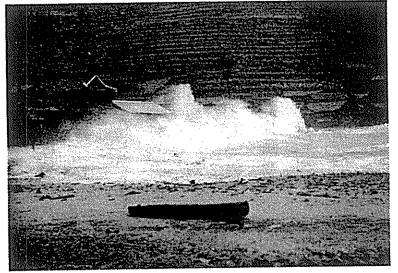


写真71 昭和29年台風5号による高波



写真73 昭和29年台風5号で寸断された通学道(魚神山)

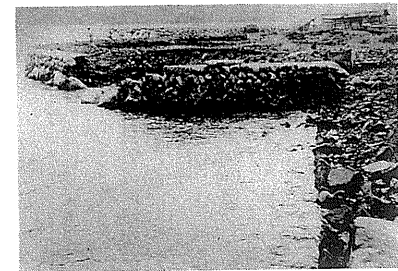


写真75 昭和29年台風5号で壊れた網干場(平落)



写真72 昭和29年台風5号で冠水した水田(須ノ川)



写真74 昭和29年台風5号の被害(柏崎)

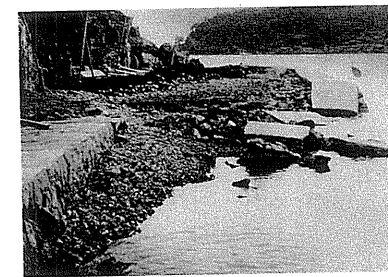


写真76 昭和29年台風5号で壊れた海岸道(柏)

に被害が発生している。五メートルの激浪が内海村の海岸帯を襲い、テラ台風でも被害のなかった防波堤護岸など数箇所が破壊された。そのほかの被害として、魚神山小学校の通学路が寸断されたほか、油袋・平落の物揚場や網干場が崩壊し、また須ノ川の水田の大部分が冠水した。柏崎では物揚場・網干場の崩壊のほか住宅や造船所が破壊された。

(二) 地震被害

1 南海地震

宝永四年(一七〇七)一〇月四日、我が国における最大級の地震の一つである「宝永地震」が起こった。推定マグニチュードは八・四、全国で少なくとも死者二万、潰家六万、流出家屋二万と言われる。被害は東海・伊勢湾・紀伊半島が最もひどく、土佐では津波による被害が甚大

であった。室戸、串本、御前崎では一メートル隆起し、高知市の東隣の地約二〇キロが最大二メートル沈下した。この地震は、遠州灘沖及び紀伊半島沖で二つの地震が同時に起こったとも考えられている。この地震による内海村の被害記録はないが、『實藤家由来書』には「宝永四年亥年高潮の節居屋井家并家財記録共不残流出仕候に付古來の義は何事も委敷相知不申候」との記述があり、この地震による津波の被害を想像させる。

嘉永七年(安政元年・一八五四)一月五日、畿内・東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽道など西日本全域にわたる大地震が起こった。いわゆる「安政の南海地震」である。推定マグニチュードは八・四で、この地震より三二時間前には「安政の東海地震」が起こっている。近畿付近では、二つの地震の被害をはっきりとは区別できない。被害地域は、中部から九州に及んだ。津波が大きく、波高は串本で一五メートル、久礼で一六メートル、種崎で一メートルに達し、地震と津波の被害の区別も難しい。岡原定太郎から内海浦庄屋所に宛てた文書に、「先日之地震大汐二而も三板七八拾坪流出仕候」とあり、内海でも津波の被害があったと想像される。

死者は数千に及んだ。室戸・紀伊半島は南あがりの傾動を示し、室戸・串本で約一メートル隆起し、甲浦・加太で約一メートル沈下した。この地震から二日後の一月七日には、豊後水道付近で推定マグニチュード七・三〜七・五の地震が起こり、更には翌年の安政二年(一八五五)一〇月二日、江戸で「安政の大地震」が起こっている。

昭和二年(一九四六)二月二日、「昭和南海地震」が起こった。

推定マグニチュードは八・〇で、被害は中部以西の日本各地にわたった。被害は、死者一三三〇名、全壊家屋一万一五九戸、半壊家屋二万三八七戸、流出家屋一四五戸、焼失家屋二五九八戸という大災害であった。また、この地震による津波が静岡県から九州に至る海岸を襲った。内海村では津波による被害はなかったものの、激しい揺れを感じた。昭和二〇年代に村内各集落が簡易水道を整備したのは、この地震の影響で井戸水が出なくなったためである。

2 その後の地震

昭和三五年(一九六〇)五月二三日、「チリ地震」が起こった。二四日二時ごろから津波が日本各地に押し寄せ、波高は三陸沿岸で五・六メートル、そのほかで三・四メートルあり、北海道南岸・三陸沿岸・志摩半島付近で被害が大きく、沖縄でも被害が生じた。この津波による日本の被害は、死者不明者一四二名(うち沖縄で三名)、家屋全壊一五〇〇余、半壊二〇〇〇余であった。このチリ地震による内海村の被害は、記録がない。

昭和四三年(一九六八)四月一日に「一九六八年日向灘地震」が起こり、震度四を記録。同年八月六日の「宇和島湾地震」では震度五を記録した。さらには昭和四五年、五〇年、五九年、六二年にも日向灘や大分を震源とする地震が起こったが、内海村では被害の記録はない。また平成一三年三月二四日の「芸予地震」でも強い揺れを感じたが、被害はなかった。